

がれき処理で指導力を

四日市
JC 田中市長に求める

四日市青年会議所は十二日、東日本大震災で発生したがれきの広域処理について、県内での受け入れに向

けて市長会や町村会の取りまとめに尽力するよう田中俊行四日市市長に求めた。伊藤彰理事長（三）も執行

部九人が四日市市役所を訪れ、陳情書を手渡した。伊藤氏は「一日も早くがれきを処理しなければ復興につ

ながらない」と可能な限りの協力を要請。田中市長は「基本的に気持ちは同じだ。重く受け止める。首長としての責任が果たせるよう取り組んでいく」と応じた。陳情書は「復興を加速させるためにも安全な『震災がれき』の処理を全国各地で分かち合い、機運を高めるべきだ」と指摘。同市長のリーダーシップの発揮を求めている。



がれき受け入れに関する陳情書を手渡す四日市青年会議所の伊藤彰理事長（左）と四日市市役所で